

Tokyo
Steel-rib
Fabricating
Association

Report

東構協

<http://www.tsfa.jp/>

2009年(平成21年)

新春号

[第18号]

発行 東京鉄構工業協同組合
〒104 東京都中央区八丁堀3-9-5 KSビル6階
-0032 TEL: 03(5566)1595
FAX: 03(5566)1597

平成21年賀詞交歓会(1月19日)於・銀座キャピタル



「品格」

理事長 池田 英敏

“人には人格あり、品格は人格に通じる”という故事がある。最近、とみに感じるのは電車の中「地下鉄」での出来事。男女問わず買い食いをする。また、羞恥心がないのではないかと疑ってしまうような女性の化粧直しを見受けることがしばしばある。道徳とか、躰はどこにいつてしまったのだろうか。目のやり場に困ってしまう。大変嘆かわしい限りであり、なかなか直せるものではないと考える。清楚で気品のある女性ほど、そうしたことがないのも不思議なものだ。少しの時間で

も自宅で準備する暇がないほど忙しいのであろうか。

その人の生活習慣を考えると、知りたいにはこの女性は嫁さんに紹介できないだろうと思ってしまう。そう考えるのは自分だけであらうか。

しかし、偶然映画のワンシーンを観ているような場面に遭遇した。優しく涼しい目をした女性が混雑している電車で読書しながら座っている。東京駅から走り出した快速が、神田駅からお茶の水駅に差しかかった時、電車が速度を緩めるにその女性は、何やら読

んでいる眼がそぞろになりだした。上半身を捻りながら、肩越しにプラットフォームを、誰やら探している。間もなく意中の人を探し出したようだ、涼しい眼差しは、はにかみをあわせ持った笑みに変わっていた。その仕草は映画「マディソン郡の橋」のメルル・ストリーブが、クリント・イーストウッドになげかけた微笑みに似て、とても素敵だった。日頃の都会の喧騒を忘れさせてくれる一時だった。

まさに気品(品格)は人格に通じるという言葉にぴったりだ。さて、今年は未曾有の厳しい年となるだろう。品格を損ねないで、日々変化している方向を見据えて解決して行きたいと思う。今年も皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、皆様とともに組合理念である相互扶助の精神を軸足に頑張りたいと思いますのでよろしくお願ひします。(池田鉄工社長)

組合理事役員

年頭のあいさつ

あせらず おこらず むさぼらず
不焦・不怒・不貪



副理事長

総務・広報委員長
松田 清明

昨年後半以降、世界同時不況に突入してしまっただけでなく、今年の景気がどのような状況下で推移して行くのか皆目見当がつかない。この状況下で会社と従業員とその家族を守ることは言うまでもない。そしてお客様と仕入れ先、下請け会社、同業者など関係先とは従前通りの誠実さを保っていくことが肝要だ。

戦国時代・江戸時代初期を生き抜いた京都嵯峨の豪商角倉素庵の「利を共にするは小なりといえども還って大なり」の言葉もある。そこで標題の「焦らず・怒らず・貪らず」を今年度の私のモットーとしていきたい。「禍福は糾える縄のごとし」と昔からの諺にある。この稿を書くにあたって「リポート東構協」第13号(2003年発行)を読み直していたら、当時の状況もITバブル崩壊後の不況下にあった。

この度の様相は当時とは比較にならないほどのショックを全世界の人々に与えているが、一刻も早い終息を願っている。まずは皆様笑いを絶やさず健康第一で！ (松田鋼業社長)

「もの作り」にフォローの風が吹く



副理事長

教育・技術委員長
森 明

戦後最大といわれたバブル不況から10年を超えて、鉄骨相場もやっと何と

か望みがもてるかに見える矢先、建築行政のつまずきに端を発した行政不況に続き、世界的金融バブルのおおりで資材高騰と供給不安にあえぐ我々ファブ業界は、追い討ちをかけるかに襲いかかって来た世界的金融危機の打撃を受けた大不況の大波を、いかにかわせるかの瀬戸際に立たされている。

大企業の事業計画は雇用の調整にまで達し、社会不安を助長し、いつになく深刻な年末年始を迎えることとなったが、世界中がお金にお金を稼がせる、マネーゲームに興じたツケが回ってきたようだ。

この中において、一方においては四人もの日本人科学者が、そろってノーベル賞受賞の快挙を達成し、明るい話題と未来の夢を国民に提供されたことは、誠に頼もしい限りであり、心よりのエールを送りたく思う。

かつて、湯川秀樹博士のノーベル賞受賞を国を挙げて称え、戦後の荒廃から立ち直り、近代国家の設立を目指すわが国は、科学技術立国を国策として掲げて、「もの作り産業」の振興に尽くしたことを思い出す。

その頃私は、この国策を受けた実業校である都立工芸高校金属工芸科に入学して、レイモンド・ローウェイの「口紅から機関車まで」に触発されて、日比谷公園で開催された第1回日本自動車ショーにスケッチブックをもって駆けつけ、ヒルマンやルノーのドアハンドル、バックミラーと手当たり次第に模写し、私の「もの作り人生」をスタートさせていた。

驚異的發展を続けた日本経済の、中心的存在となった「もの作り産業」は、日本の誇りであり、我々も自負の念を持って、大いにその発展に寄与してきた。しかしながらここ数年、金融産業こそ近代国家にふさわしい産業であると称えられ、日銀総裁が自らの資産倍増の成果を見せつける一幕まで露見され、こぞって国策なき産業の基での社会経済活動を余儀なくされてきた。

アメリカ発の今日の金融産業の破綻劇は、大きな警鐘となって世界を駆け巡り、わが日本国も、再び過去の教訓に目覚めたようである。無から有を得る「もの作り」こそ、全世界社会産業の根幹であることに、やっとまた、目が向けられてきた。

明日から吹く風が「もの作り」にフォローの風になることを信じて、心機一転奮起いたしましょう。

(日本鉄構建設工業会長)

癒し



副理事長

共済事業委員長
Mグレード部長
池谷 春夫

自分がこんな年齢になったとの実感がない、そう思う今日この頃。

振り返ってみて、約40数年間鉄骨業界に携わってきたことが走馬灯のように思い起こされる。

鉄骨業界の創生期は、とくに基準や標準がなく、あまり整備されていない時代で、品質に対しても安定されていなかった。現在に至って、鉄骨工事専門業としての地位の確立がある程度でき上がり、大変な建築躯体構造の一躍を担う様に確立されたと思う。

鉄鋼は基幹産業の一つであり、今後も良い物を社会に送り続けるのが使命だと思う。これまでわれわれが取り組んできた様々な活動の成果を発揮すれば、さらに発展するだろう。すべては現実を直視し、問題を共有することから始まるように思う。

私事だが、これまで仕事一途にやってきて趣味はとくになく、ゴルフ位だ。ゴルフはストレス発散できるほど上手ではない。何かほかに「癒し」と思い、このたび子犬を飼うことにした。スポーツドックとしてフライングディスクができる犬を選定した。ス

コットランドとイングランドの境で生まれた牧羊犬ボーダーコリーで、警察犬・災害救助犬・介護犬、また癒しとなるアニマルセラピー犬であると言われている。IQが非常に高く、賢く人間関係が好きで、飼い主に忠実であると聞いている。

仕事を放れた時間帯に自分の癒しになればと期待している。さらに今後、仕事を続ける上において、一つの趣味があればと思う。

昨年から業界を取り巻く状況が一段と厳しくなり、企業経営がさらに厳しい状況が続くだろう。ゴルフで言えばボギーペースの会社でいい、OBを打ってはいけないと言うような堅実経営が最大の目標である。これまで企業は、よく生き残りと言われてきたが、勝ち残りしかない。

継続は力なりを実践できるか、まず問われることになると思われる。

新年を迎えて特別な感情はないが、身体強化・自己健康管理は厳しくという思いで一杯。皆さんも健康にはとくに留意しましょう。

(日東鉄工取締役本部長)

タイの政変を身近に体験して



副理事長
経営近代化委員長
武田 忠義

海外の政変などはテレビを通して見るもので、その渦中にいる自分を想像される方はそう多くはないだろう。ところが、先日身近に政変を体験するという機会に直面した。

11月下旬に所用でタイのバンコクを訪問中、反政府派市民団体が現政権の退陣を求めた大規模集会や国会議事堂へのデモ行進を計画しているとのニュースが相次いで報じられ、多少の心配はあった。ただ、治安は常と変わ

らず、町中ではそれほど緊迫した雰囲気は感じなかった。タイはこれまでも10数回にわたってクーデターが発生しており、在タイ日系企業の多くも「政情不安」を織り込んで進出していることから、タイに政情不安はつきものと楽観視していたところ、空港閉鎖という予想外の事態に発展。このため5日も足止めを食い、政変が身近で起こっていることを実感した。

新聞などが伝えるところによると、タイ首相府の不法占拠を続けるタイの反政府派市民団体「民主市民連合(PAD)」は11月24日、国会議事堂へ1~2万人規模のデモ行進を行い、25日にPAD支持者の一部が空港を占拠。同日夜には新バンコク国際空港(スワンナプーム空港)の周辺道路が封鎖され、タイ空港公団(AOT)は同空港の閉鎖を決定。12月3日午後、反政府団体が撤収し、国際便を含む運航が再開されたとのこと。私自身はタイ軍ウタパオ基地から臨時便で帰国した。年間4500万人が利用する東南アジア随一の空港だけに、1週間以上続いた閉鎖の影響は大きく、輸出入業者や観光業者が蒙った損害は甚大。親日家も多いタイの一日も早く立ち直りを期待するとともに、改めて平和の大切さをかみしめる体験となった。

(叶産業相談役)

地球の危機は待ってくれない!



副理事長
耐震補強対策委員長
飯田 歳樹

実際問題として地球温暖化は、もの凄いスピードで起こっている。

私たち先進国は、近年、問題が深刻化している温暖化対策を早急に実行に、地球環境を改善する責務を負わなくてはならない。

しかし、私たち鉄骨業界、製造業という職業自体が地球環境にとって、とても良いものではないかと思う。

地球という惑星の存続を願って…。家族や将来を担う人類の存続を願って。そして…我々、鉄骨業界自体の存続を願って…。

製造業を営む以上、環境破壊をゼロにすることは不可能かと思う。しかし、少しずつでも構わない。思いついたことから直に実行を。

傍観者ではなく、この地球に生存する生物と、未来を託す人類のために、私たち、すでに熟成した鉄骨業界でも出来ることから行動に移そう。

建築鉄骨は人類が快適な生活を送る上で、なくてはならない業種であることは確かだと認識したうえで、各企業単位ではなく、鉄骨業界全体でテーマを創り、実行しましょう。

(飯田製作所社長)

もの与人



理事
井戸 弘忠

昨年の話になるが、年末に新幹線0系のラスト・ランが行われ、老若男女を問わず多くの人々を集めた。これは新幹線というモノ自体に備わった魅力のおかげだろう。

初代の新幹線登場は1964年。日本が戦後の辛い時代から立ち直り、希望に満ちた時代の「夢の乗り物」であった。われわれは、新幹線の最高時速200kmという数字に、飛行機を思わせる美しいフォルムに、輝かしい日本の未来と「ものづくり」の感動を直に感じたものだ。

建築鉄骨という「ものづくり」を生業としてしていると、他の分野のものに興味を持ってしまう。思えば日本はいろ

いろいろなものを作るようになった。「技術立国日本」と呼ばれて久しいが、それは偉大な先達たちが、高い技術力と勤勉な仕事を武器に、現在の地位を築き上げた結果だ。この資源の少ない小さな島国が、世界を相手に伍して来れたのも、人を資源として磨き上げた結果だと換言できると思う。

ひるがえって、技術立国としての地位を確立した現在、広義の意味での技術者ではなく、「ものづくり」に直接かかわる技術者が減少している。いわゆる、業界全体に広がる後継者不足だ。ものを作る喜びや、できあがったものに対する感動はいささかも変化がない。にもかかわらず若い志望者は減少しており、業界全体が頭を悩ませている問題で答えが見当たらない。

日本はこれまで世界と戦う過程で、いろいろなものをそぎ落とし、利益を追求してきた。利益の追求は経営者として当然であり、人材育成との両立はなかなか難しい。しかし、利益追求だけでは立ち行かなくなっているように思う。

新幹線の最後の雄姿に、開発や製造に携わった人々を思い起こしてみた。われわれもあるものから、後世の人に思い起こされる仕事をしたいものだ。そのためには、後継者を含めた人材の育成が重要になるのではないだろうか。
(帝都建工会長)

今こそ原点に立ち返る



理事
角鹿 茂

去年の世相を表す漢字に「変」が選ばれた。この字から連想されるのは、「変革」「変化」「変更」「変動」だろう。昨年はアメリカ初の黒人大統領オバマ氏や、麻生首相が盛んに「変革」を訴

え、われわれの業界でも鋼材価格高騰やスクラップ価格の乱高下、サブプライムローンに端を発した世界経済の急激な落ち込みなど、景気が激しく「変動」した年でもあり、「大変」な年であった。なるほど、どれもふさわしいように思える。

しかし、去年を表す漢字としては「変」とそのまま読むほうがよいだろう。すなわち、今までの知識や経験が全く通用しない「変」な年だったと思うからだ。

鋼材価格をみても、前半は値上げが連続して、われわれは追い付こうと必死に努力していた。かと思えば後半に入り大幅な値下げ、われわれの業界に大きすぎる打撃を与えている。景気も同じだ。昨年年初に現在の状況を予想できる人などおらず、今も見通しについて明確に語る人もいない。やはり過去の経験値が通用しないのだろう。

さて、今の「変」な情勢にあって、我々はどうすべきか。私は原点に立ち返るよりほかにないと思う。時代に合わせ、自らを変化させる者もいるだろう。また、「時代は進んでいる」などと指摘を受けるかもしれない。しかし、職人としては“高い品質の製品”を作る、モノづくりの原点を、また、経営者としては“利益を優先”した経営の原点を、協会に関わるものとしては“団結と相互扶助”という組合の原点を大切に、立ち返る必要があると思う。
(角鹿鉄工社長)

乱世を生き抜いた名宰相の一面



理事
中川内 伸吉

今年のNHK大河ドラマ「天地人」は、上杉家に仕えた名宰相として知られる直江兼統の生涯を描いている。上

杉謙信の養子として上杉家を継いだ上杉景勝（長尾頭景）に仕え、戦国時代から江戸時代初期にかけての波乱の時代を生き抜いた。

直江兼統は、豊臣秀吉をして「天下の政治を安心して預けられるのは、直江兼統・小早川隆景・堀直政など数人にすぎない」といわしめたほどの器量の持ち主だった。徳川家康でさえ一目置いていたといい、天下分け目の関ヶ原の戦いの際に西軍に属しながらも、敗戦後は会津百二十万石から米沢三十万石に転封されるにとどまり上杉家を存続させることに成功。優れた政治手腕を発揮し、上杉家を支えた。

この人物にまつわる逸話は数々知られるが、そのうちの一つ『名将言行録』に伝わるエピソードを紹介したい。彼の人となりの一端が見て取れよう。

ある時、直江兼統の三宝寺勝蔵という家臣が下人をして領民を無礼打ちにした。後の調べで下人の罪は斬り殺すほどのものではなかったらしく、直江兼統はその家臣に下人の家族へ慰謝料を払うよう命じ、遺族らには「死んだ者は生き返らない。これで堪忍してほしい」と諭した。だが遺族側は納得せず、「死んだ者を返せ」と言って騒ぎ立てた。すると直江兼統は、「それほどまでに言うなら仕方ない。あいにく当方には冥途へ呼びに行く者がおらず、そなたらが冥途まで呼びに行ってくれ」と言い、その遺族3人の首をはねた。三条河原にさらした首の傍らには、閻魔大王へ宛てて「勝蔵の家来が不慮の死を遂げ遺族らがあの世から呼び返してほしいと言うので、遺族の者を使いとして迎えに送りました。死者をお返しくださいますようお願いいたします」と書いた立て札を建てたという。

智将らしい機知に富む話であるとともに、時には冷徹な決断力をもって事を処理したことがうかがわれる。兜の前立に、愛の文字を掲げ、仁愛を重んじた半面、戦国乱世を生き抜くため

将たる者にはこうした厳しい風貌も求められたのであろうか。

(中川鉄工所社長)

一寸先は光



理事
鈴木 貴久

世界の書籍ベストセラー、No.1は何？正解は・・・

- 1位 聖書 3880億部。歴史の長さからして当然だろう。
- 2位 毛沢東語録 65億部。中国の人口と文革の凄さを考えると納得できる。僕も最近、日本語版を北京で購入した。
- 5位 ドラゴンボール 3億部。
- 8位 ゴルゴ13 1億5000万部。
- 9位 こちら葛飾区亀有公園前派出所 1億3000万部。
- 9位 ドラえもん 1億3000万部(国内1億部)と続く。

1位の聖書は置いて、・・・ドラゴンボールの3億部。いったい誰がこの快挙を想像し得たのか。たかが漫画という言葉はもはやない。日本国内発行部数は1億6000万部、全世界では3億を超えるそうだ。連載開始から20年、連載終了から10年以上たった現在でもその人気は衰えることなく、恐ろしい額の印税が作者に渡った

ことだろう。どこかの国の総理大臣もお好きだが、オタク文化と括るのではなく、もはや日本を代表する文化、そして製品と言える。世界を舞台に活躍する日本のオリジナルな力強いエネルギーを感じる。

ニッポンの未来は♪世界がうらやむ♪とバブル崩壊後の日本企業を鼓舞するように歌ったのはモーニング娘。百年に一度の経済危機と言われたって、落ち込んでなんかいられない。過去5年間は誰でも儲かった時代。今は未来が見通せる本物だけが生き残る時代と言われている。大きなチャンスも同時に生まれるはず。誰も気にしない、その小さな可能性を見出せるのかどうか。突破口は必ずあるはず。もちろんどうなるかはわからない。しかし、思い切って自ら切り進まないで、楽しい未来はやってこないのは確か。

一寸先は光。どんな時も、もちろん今年もそう信じて。

(那須ストラクチャー工業専務)

「私の健康管理」



理事
柳本 幸治

今、健康管理をすることとは、長年若い時から労働に耐える体に恵まれていたことに他ならない。

欲しいままの食事、飲酒等々により、いかに健康について「おそろかに」していたかの結果である。

4カ月前、健康診断の結果、肝臓、血糖、血圧の数値は基準値の3~4倍で加えて「メタボ」と最悪の健康状態とわかり付けの医師に言われ、健康管理の指導を受けた。

1、酒類は肝機能が良くなるまでやめる。

1、糖分、塩分、脂肪分、炭水化物は適量に、食事に注意する。ちなみに、私の必要な一日のエネルギー量(kcal)は、身長(m)×22=kg(標準体重)×30(軽運動)=kcal、「1.642×22×30=1,775kcal」である。

1、一日の食事は必要エネルギー量の65%とし、栄養バランスに注意すること。このことは1年前に「タバコ」を止めた時より(1日3箱の喫煙)辛い思いをした。

1、1日2個の「ホタテ貝」の乾燥貝柱を食した。(肝臓にしじみ味噌汁30杯分の効果があると…インターネットによる)

1、1日1回はウォーキングを40分~50分した。(住まいが川口市安行の植木畑にある散歩コースで、家族とのウォーキングに適している)

以上、5項目を医師の指導により実行し4カ月が過ぎて、再検診の結果、医師が驚くほどの回復ぶりであった。も

協力会発足後初の総会を開催 東構協協力会

東京鉄構工業協同組合協力会(会長=石塚勲・富士見興業社長)は5月27日、都内のホテルで会員ら15名が参集し、第1回総会を開いた。当日は、平成20年度事業計画・収

支予算など各議案を審議、全員一致で承認。石塚会長は「研修会やゴルフコンペなど東京鉄構工業協同組合の行事へも積極的に参加し、組合員の皆さんとの親睦を深めたい。また、協力会会員のPR活動や展示即売会の企画・立案なども積極的に推進していく」と運営方針を述べた。



う少しの頑張りで、健康な検査基準値になると、お褒めの言葉を頂いた。

健康管理は今スタートしたばかりである。これからも持続していくには、生活環境を改めない限り健康状態はおぼつかない。自分との闘いである。

(富士工業取締役)

会社の理念と継承 経営の継続



理事
佐々木 義弘

景気減速、先行き不透明、秋口までの鋼材の高騰、品不足、副資材の値上げ…。創業以来 46 年経験したことがないことが起き、工事価格では 20% 位赤字。生存を賭け無駄をなくし、作業面での改革努力を惜しまず顧客に品格のある製品を提供してきた。しかし、昨年 11 月頃からの一部鋼材価格の値下げ、工事価格の下落、今までの赤字も転嫁も出来ないまま値下げ要請

も出ている。11 月分契約工事までも、今後どう進めていくか正念場にきている。

然し今日まで 46 年間培ってきた技術・技能・信頼性・積極機敏性、何事にもチャレンジする精神を持ち全員明るく団結し前進することで、製品そして会社の品格を顧客に認めて頂くことが、この先の不安定な時期を乗り切る技ではと思う。当社も 2008 年の計画でもあった工場用地買取、工場の増設を 2009 年に延期したが、今年こそ計画達成、グレードに恥じない工場にし、顧客に安心して頂ける品格のある工場にしたい。

「豊かな発想と機敏な行動力で、安全第一で家族揃って健康を大切に」をモットーに、不安定、不透明な時期を乗り切るため、本年から月 2 回の安全会議の後に全員で家族・会社・仕事・趣味など何でも話し合える場を作る。その時は、私の趣味のゴルフそしてカメラの話でもと思う。キャリアは長い写真ほど難しいものはなく、良い被写体、シャッターチャンスに恵まれることは少ない。昨年 9 月下旬の組合の

理事会と秋田組合の皆様との交流会は非常に有意義な会議であった。懇親会で私は酒は得意ではなかったが、秋田県の理事の方達の勧めが上手なものと秋田の酒が旨いのか本当に美味しく、私達のテーブルが 1 番頂いたのではないかと。秋田の酒のファンになった。

翌々日、早朝 7 時、十和田湖は天候は曇り。絞り、シャッターを合わせ構図を決め少し待つ。晴れ間が出たので 10 枚位撮る。遊覧船にて子の口へ、奥入瀬は 3 回目の挑戦。天候は曇り、時々小雨。私に何か恨みでも思いながら絞り、シャッターを考えている間に雨が上がり太陽が出る。急遽 20 枚位写すことが出来た。早く帰りどうだったか見たい。今までに撮ったことのないアングルで撮れていた。うち 4 枚は素晴らしい出来で先生方からお褒めを頂く。長年の辛抱が報われた。特に秋田の人々の情熱は素晴らしかった。今年もまた色々な所での人との出会いを楽しみに仕事、カメラ、ゴルフに健康で頑張りたい。皆様方にも良い年でありますようお祈り致します。(東京建鉄会長)



「辛夷」

東構塾塾長
古藤 凱生

小宅の前の街路樹は辛夷(こぶし)である。両側で 60 本程度あり、春先に小さな花が咲く。色は白と薄いピンクがあり、花の形もそれぞれ違いがあり、細かく観察すると飽きることがない。

家の前の 2 本は四六時中手入れを欠かさず水やりや適度に栄養剤も撒いているので、他の木より一段と大きく立派に育っている。

新芽の頃は苞子が落ちて道を汚す

が、夏には葉が大きく成長し、結構広い面積の日陰を作り、年老いた犬の格好な散歩道となっている。

秋には奇怪な形をした奇妙な色の実がみられる。その形が赤子の握りこぶしに似ており、これが名前の由来になったようだ。葉は多少色づくが紅葉とはいかず中途半端である。

初冬、雨が降り木枯らしが吹くと一斉に落葉し～枯れ葉よ～とシャンソンの一つも歌いたくなる風情である。が、その掃除が大変で、大きなゴミ袋 4～5 杯を 3～4 日にわたって捨てねばならない。

他所の辛夷は家の前と違って、幹も細く葉の数も少なくて処理が楽であり、葉が落ちた丸裸の木には来春のための蕾が沢山見られ、咲き出し

た時の見事さを想像させる。木も大きいばかりではなく見事な花を咲かせてこそ銘木といえよう。

東構塾を開塾してから早いものでもう足かけ 4 年になる。塾生も延べ 50 名を超え、うらやましいほどの若さで皆元気に受講している。「他の者を指導してこそ自分自身の向上もある」と言われるように、私自身も昔の苦勞話を混ぜながら「鉄骨造り」の基本を改めて感じている。「良い人間が造る鉄骨は良い鉄骨である」が持論であり、良い鉄骨の造り方より良い人間づくりに一生懸命である。決して大きな木でなくていい、春になったら人に喜ばれる花を咲かせる良い木になってほしいと願っている。

各委員会報告

<総務・広報委員会>

■組合員名簿の発行（平成 20 年 5 月）

■東構協ホームページの改訂

基本理念 組合員の営業に繋がるような構成とし、希望（有料）により組合員にページを割り当てる。

検討チーム 主査：森副理事長

委員：中川内理事、吉岡理事、松田一朗、石郷岡英之

今年度中の完成を目指して鋭意作成中

<共済事業委員会>

■共同購買

・作業用革手袋 1 双：230 円（消費税別）

発注単位：100 双

取扱い：富士見興業(株)

サンプルご入用の方は、事務局まで申し込み。

・防じんマスク

取扱い：富士見興業(株)

防じんマスクの着用の徹底を

溶接作業とグラインダー作業においては防じんマスクの着用を作業員に対し徹底して下さい。

「じん肺」は長期間（10 年以上）かかって発症します。一度「じん肺」になると回復することはなく、じん肺作業を離れてもその症状が進行することがあるといわれています。

・鉄骨製作工場名表示板

取扱い：美鈴印刷紙工(株)

価格改定（値下げ）

10 枚作成 33,000 円（税別）

注文は、事務局まで。

・バンドソー：形鋼専用ブレード

品名：プロテクター

(株)アマダカutting

サンプル 2 本を無償で提供します。事務局までお申し込みを。

価格は、通常品より約 10% 程度高いですが、寿命が約 1.3 ~ 1.5 倍になり、経費節減になります。どのメーカーの機種にも装着可能です。

・全構協：生命共済

取扱い：大同生命保険(株)

組合員の福利厚生と企業の安定のために掛金は、団体料率適用の為、割安です

・全構協：オートリース

資料請求は事務局まで。

<教育・技術委員会>

■性能評価（工場認定）（新規、昇格）

平成 19 年度・後期認定

H グレード：1 社（新規 アイ・テック東京工場）

平成 20 年度・前期認定

M グレード：1 社（昇格 鐵建工業東京工場）

R グレード：2 社

（昇格 コイワ 八街工場

新規 かしや建設工業）

■鉄骨製作管理技術者 講習会

1 級：平成 20 年 9 月 20 日（土）

2 級：平成 20 年 10 月 11 日（土）

会場：総評会館

受講者 1 級：168 名 2 級：149 名

■JIS Z 2305 超音波探傷試験技術者

実技講習会（2 次試験対応）

平成 20 年 6 月 12 日、13 日

会場：松田鋼業 所沢工場

<M グレード部会>

■理事会の前に開催 部会員から提出された各月の情報集計表をもとに山積調整、情報交換

■全国 M グレード部会連絡協議会

総会 平成 20 年 6 月 21 日（土）

山梨県 石和温泉

山梨県 M グレード 工場見学

<R・J グレード部会>

■情報集計表の収集と配布

集計表の提出が少ないので、提出にご協力を。

■全国 R・J 部会連絡会

・総会：平成 20 年 4 月 11 日（金）

京都：ホテルグランヴィア京都

・役員会：平成 20 年 11 月 19 日（水）

東京鉄構工業協同組合 会議室

・工場見学会

フルサト工業(株) 滋賀工場

平成 20 年 9 月 5 日（金）

コンドーテック(株) 関東工場

平成 20 年 9 月 19 日（金）

<耐震補強対策委員会>

今年度も受注工事は多く、組合財政に貢献した。

<青年経営者委員会>

「工作しやすい鉄骨設計」等講習会

平成 20 年 11 月 15 日（土）

会場：銀座キャピタルホテル

「鉄骨製作管理技術者」 受験準備講習会

当組合は 9 月 20 日と 10 月 11 日、東京都千代田区の総評会館で「鉄骨製作管理技術者」資格試験受験準備講習会を開催した。それぞれ 1 級受

験予定者 168 名、2 級受験予定者 149 名が受講した。講師は、羽石良一・さくら設計事務所代表と内田三雄・日建設計コンストラクションマネジメントシニアエンジニア建築監理担当。テキストは『1・2 級鉄骨製作管理技術者 試験問題と解

説集』、『建築工事標準仕様書 J A S S 6 鉄骨工事』などを使用した。



理事役員会報告



◆ 1月理事会 ◆

□ 1月21日、於・銀座キャピタル（東京都中央区）□

池田理事長はあいさつで、年初の鉄骨業界を取り巻く環境について「国交省では徐々に確認申請の停滞が解消されてきたとの見解を表明しているが、その実感に乏しいのが現状だ。本日、東京製鉄の値上げ発表があり、材料費がまた上がる。確認の下りない物件を抱えているところも多いため、見積り時点の鋼材価格と仕入れ価格の乖離（かいり）など懸念材料は尽きない」と契約交渉での留意を求めた。

部会報告では、「品質管理責任者の兼務の取り扱い」に関する陳情活動の結果が報告され、今後も引き続き「品質管理責任者の兼務」が恒久的に認められることを目指して運動していくとの方針が示された。

◆ 2月理事会 ◆

□ 2月26日、於・組合会議室□

各委員会報告のなかで、教育・技術委員会の森明委員長は、「『組合主催の各種講習会についてのアンケート』の結果を踏まえ、組合として職長教育のための講習会を実施したい」と提案し、リスクアセスメントに基づく災害防止対策を義務づけている改正労働安全法（安衛法28の2）の適用状況について説明。協議の結果、組合員を対象とした講習会の開催を決議した。

さらに、「25度開先」説明講習会を「開催する方向で検討する」としたほか、「工作しやすい鉄骨設計 第3版」に関する研修会については「JSCA

東京が主催する形で、設計者とファブが合同で参加し、交流する場にはどうか」等の意見を検討し、青年経営者委員会の新年度事業計画として推進することにした。

◆ 3月理事会 ◆

□ 3月25日、於・組合会議室□

池田理事長は挨拶で「桜の開花宣言などすがすがしい季節を迎えたが、我が業界は鋼材価格の急騰、確認申請の遅れなど非常に厳しい局面にある。このような状況下、確かな情報の共有化は極めて大切」と述べ、組合事業の積極的な活用を呼びかけた。

教育・技術委員会が2月と3月に分けて実施したJIS超音波探傷試験技術者春季試験用講習会のほか、職長教育・リスクアセスメント教育を報告。また、4月に京都で開催される全国R・Jグレード部会連絡会の総会への参加者を確認した。

◆ 4月理事会 ◆

□ 4月24日、於・組合会議室□

池田理事長は冒頭、「法改正以降、停滞する建築確認を待つ間に鋼材の垂直値上げが相次ぎ、ゼネコンとの折衝は困難を極める。また、材料の入手難や先行手配に伴う資金繰りの問題、対ゼネコンの与信不安など3重苦、4重苦を抱えている」と現状を述べ、「仕事の融通や情報交換を通じてお互いに助け合い、組合員一同団結してこの難局を乗り切ろう」とあいさつした。

当日は、第22回通常総会に向けて①性能評価受審のための指導と支援の拡充②共同購買事業の活発化③耐震補強事業の一層の促進④各種研修および講習会の積極的な開催——などの新年度事業計画案を策定した。

活動報告の中で、『品質管理責任者の兼務の取り扱い』に関する陳情活動の結果が報告された。これは昨年末、「品質管理責任者の兼務の取り扱い」の恒久的運用を目的に、全国Mグレード部会連絡協議会および全国R・J部会連絡会の連名で全構協事務局に要望

書を提出したもの。「現在、慎重な検討の最中だが、RグレードとJグレードについては要望が認められる方向で決着する可能性が高いようだ」と経過説明された。



◆ 5月理事会 ◆

□ 5月27日、於・組合会議室□

総務・広報委員会は、森明教育・技術委員長から「組合HPの刷新を図りたい」との提案があったことを報告。HPの作成と維持・管理を行う特別委員会の立ち上げについて検討し、全会一致で承認した。

耐震補強対策委員会は、耐震物件の引き合い状況を報告。出席者からは、「四川大地震を機に、不調案件が見直されるケースも出てきている」（森教育・技術委員長）との指摘や、「材料入手難のなか受注には慎重を期し、SN400B材等の手配を確保することが最優先となる」（池田理事長）と注意を呼び掛ける声などが聞かれた。

◆ 6月理事会 ◆

□ 6月18日、於・組合会議室□

池田理事長はあいさつで、「中小企業に対する地銀や信金による貸し渋りが表面化してきた。景気の悪化を象徴する事件にも事欠かず、企業の存続を左右する管理責任者兼務の問題を抱えるなど、われわれを取り巻く環境は一段と厳しい」とし、冷静な現状把握が重要と強調した。

議事では、「品質管理責任者の兼務の取り扱い問題」に関する陳情活動の進捗状況が説明され、今後とも討論や陳情に注力する必要性を確認。

また、商工中金の民営化に伴う株式会社への移行について対応を協議し、株式保有に応じることを決議。そのほ

か、関東支部会の役員改選で、池田理事長が新支部長に、技術教育委員に飯田歳樹副理事長（飯田製作所社長）の選任を報告した。

◆ 7月理事会 ◆

□ 7月16日、於・組合会議室 □

耐震補強対策委員会は、「四川大地震などの影響からか、公共施設や体育館向けに需要が増えている」と耐震補強工事の概況を説明し、「夏場の耐震工事では熱中症などの危険が伴う。現場施工者の体調に十分配慮して欲しい」と注意を喚起。また、9月をめどに今夏の受注実績を集計することとした。

議案審議では、秋田県鉄構工業協同組合との交流会を兼ねた第一回出張理事会の日程等の詳細を協議。参加人数や移動方法なども検討した。

池田理事長は、「日銀が直近の景気動向について、原燃料高騰の影響による一層の減速を表明している。また、建築需要の見通しでも、秋口にかけて中小物件の出足は楽観視できそうもない」と現状を総括し、「お互いの情報交換を密にしていこう」と呼びかけた。

◆ 9月理事会 ◆

□ 9月26日、於・秋田ビューホテル（秋田県） □

池田理事長はあいさつで「中国のことわざに『疾風に勁草を知る』がある。苦難にあって初めて、人の節操の堅さや意志の強さが分かるという意味だ。業界を取り巻く環境は、まさに激しい風が吹くように厳しいが、諺にある丈夫な草になるように皆で頑張っていこう」と述べた。

理事会では、鋼材価格高騰及び入手難に対する鉄骨工事契約対策の周知や、10月7日に後期性能評価申請説明会を組合会議室で7社を対象に開催することなどを報告。このほか、青年経営者委員会主催の講習会を承認した。審議事項では、引き続き開催予定となっている秋田県組合との交流会の議事内容や討議テーマなどを確認し

た。



◆ 10月理事会 ◆

□ 10月27日、於・組合会議室 □

教育・技術委員長が組合HPのリニューアル作業の進捗状況を報告。掲載事項について再度協議したほか、森明委員長の「組合員の紹介ページを設けたい」との提案に対してアンケートにより賛否を問うことを決議した。次いで、新年会の日程と開催場所などを審議、東京都中央区の銀座キャピタルで開催することを決定。また、秋田県組合との交流会を兼ねて9月27日に行われた出張理事会の成果や、全構協の生命共済への加入状況などが報告された。

理事会後の懇談で、Hグレード関係者は、都内の再開発案件は「ほぼ予定通り進んでいる」としながらも、世界的な経済の冷え込みを背景に「東北、中部で大型設備投資の計画見直しや中止が相次いでいる」と潮目の変化を指摘。「再来年まで見えている」としていた仕事も「不透明感が強まってきた」と先行きを不安視する意見も聞かれた。

池田理事長は「株価が大暴落して経済が混迷の度を深めるなか、東京製鉄の大幅値下げの影響など目先の変化に一喜一憂しても始まらない。こうしたときこそ、古人が『地にいて乱を忘れず』と言ったように、どんな異変にも対応できる備えを常に心がけつつ、軸足をしっかりと据えた経営戦略を練ることが重要だ」と心構えを語った。

◆ 11月理事会 ◆

□ 11月20日、於・組合会議室 □

今年で第Ⅱ期4年目を迎えた東構塾は今期の終了を間近に控え、塾生を対

象に継続の賛否や参加の意思を問うアンケートを実施。結果を踏まえ、第Ⅲ期の開講を協議。「受講希望者がいる限りは続けていきたい」とし、全会一致で継続実施を決定した。古藤塾長の今期退任で現在新しい塾長の人選を検討。

審議事項では、組合HPのリニューアルについて製作者から提出された見積もり内容に基づいて発注先を選定。また、東構協新年会や全構協全国大会の企画やテーマを協議したほか、「鉄骨製作管理技術者試験準備講習会」など各種講習会の収支や参加人数などの実績が報告された。



◆ 12月理事会 ◆

□ 12月18日、於・組合会議室 □

池田理事長は冒頭、「需要を引っ張ってきた自動車など輸出産業の相次ぐ減産で生産工場などの大型設備投資案件が延期や中止となっており、来年はますます厳しい年となりそうだ。組合員が1社も欠けることなくこの難局を乗り切るために、仕事を分け合い情報を密にしながら結束を固めていきたい」とあいさつした。

理事会では、全国鉄構工業協会の全国大会への支援体制を決議。全構協総務・共済委員会と協力しながら企画立案や大会運営を補助するための準備委員会を設置した。準備委員には副理事長5名、青年経営者委員2名と組合事務局を任命、年明け早々に会合を開いて打ち合わせ等を進める。このほか、新年会の式次第や司会進行役等の人選、出席予定者数などを確認。また、組合HPのリニューアルについて、トップページに掲載するキャッチフレーズ案を募集することとした。

活発な事業活動を展開

全国Mグレード部会

◆懇談会◆

□3月5日、於・鉄鋼会館（東京都）□
 関東Hグレード協議会との両幹事による懇談会を開催。両団体の協調と意思疎通の推進を目的に初めて開催されたもの。Hグレードから14名、Mグレードから9名の計23名が参加した。懇談会ではとくに鋼材価格の急騰により物件見積もりの価格設定が困難になりつつある状況が改めて確認。鋼材価格急騰と納期長期化が進めばS造のメリットが薄れ、RC造を中心とする他構造に市場を奪われかねないとの懸念の声も聞かれた。また席上、Mグレードから「われわれはHグレードに比べ営業力が弱く、年間を通じて仕事を標準的に確保するのが難しい」の意見を受け、両団体会員が将来的な仕事のやり取りなども視野に入れた信頼関係を築く場として、同懇談会の継続実施を検討することにした。

◆総会◆

□6月21日、於・石和温泉ホテル（山梨県）□
 第3回総会を開催。今年度の事業計画で登録部会員名簿を作成して情報交換を促進、全国各県組合に「Mグレード部会」設立を働きかけることなどを決めた。総会には正会員のほか、長野県と兵庫県がオブザーバーとして出席、総勢約40名が参集した。総会後には出席者が3班に分かれ、①性能評価②情報交換③業界の改善と将来展望の3テーマでグループディスカッションを行った。

総会前に研修事業として同県内のMファブ、鷹野鉄工を見学した。

◆役員会◆

□11月21日、於・組合会議室□
 平成21年度総会や事業活動について審議。池谷会長は「鉄骨製作に携わ

る者として、匠の世界を後世に残し、技術を継承していくためにも、その原点というべき『リベット・カシメ』の実演を行いたい」と述べ、総会後の研修に盛り込む提案を上程。協議の結果、来年4月中旬に羽生駅前の産業文化会館で通常総会を開催、同所でリベット・カシメの講演、日東鉄工羽生工場での実演を決定。テストピースのほか、リベット、ホゾ、鉄砲などを準備することにした。池谷会長は「実演のようすをDVDに保存して、失われつつある匠の世界を後世に残したい」の考えと全国Mグレード会員に加えて、各県青年部の参加を呼びかける意向を示した。



全国R・Jグレード部会

◆総会◆

□4月11日、於・ホテルグランヴィア京都（京都府）□
 第5回総会で共通目標を採択し、小規模ファブの経営基盤の拡充と技術力の底上げに向け、精力的な事業を展開していくことで意識統一を図った。参加者は61名。任期満了に伴う役員改選で、埼玉県鉄構業協同組合RJ部会の渡辺修会長が第3代全国会長に就任した。総会では重点事業計画を可決承認。総会後にはメリットある組織体系と活動の方向性に向けて工場認定問題、鋼材相場高騰と手配問題、R以下の情報交換のあり方、全構協への要望などのテーマを中心に、意見を交換した。

◆要望◆

□6月12日、於・組合会議室□
 全国鉄構工業協会（会長＝山本康弘・トウジ工業会長）を訪れ、性能評価基準における「品質管理責任者の兼務の取扱い」の要望書を手渡した。全構協に要望活動を行ったのは、同部会

連絡会役員メンバー14名で、山本会長が対応した。渡辺会長らは「最近の工事において、Mグレード以上の指定が増加傾向にあり、R・Jグレードの価値が低下、企業経営面で厳しい状況になっている」とした上で、品質管理責任者の兼務の取扱い問題について、「兼務不可の取扱いはR・Jグレード企業に更なる負担を強いることになる」と基準運用の見直しを求めた。また、鉄骨業界における地位向上を目的に「R・Jグレードの意見が反映できるような業界システムの構築」のほか、構造設計等の関係者に対する「適正なグレード指定の実施、協会としての対外的PR活動の推進」を強く求めた。

◆研修◆

□9月5日、於・フルサト工業（滋賀県）、9月19日、於・コンドーテック（茨城県）□
 5日、関西地区の研修事業として、フルサト工業滋賀工場見学会と、ターンバックルブレースやアンカーボルトなど建築用丸鋼ねじ製品の新規格を題材に講習会を開催。大阪鉄構組合、京都鉄構組合、三重鉄構組合の各RJ部会から31名が参加した。丸鋼ねじ製品の建築構造のなかの位置づけを再認識、転造ねじの理論的仕組みや、生産工程や品質管理体制などを学んだ。

また、19日には、関東地区の研修事業としてコンドーテック関東工場（茨城県結城市）を見学、ターンバックルブレースとアンカーボルトの製造工程や引張試験などを見て回った。群馬・埼玉・千葉・東京・山梨の各都県鉄構組合RJ部会から20名が参加。建築構造用圧延棒鋼の切断、ネジ切り、溶接などターンバックルブレースの製造工程や自動化ラインの稼働状況、噴霧式静電塗装設備などを見学。ABTの生産ラインでは、転造と切削の2種のネジ切り加工について特徴や性能の違いなどの説明を受けた。



**「工作しやすい鉄骨設計」講習会
青年経営者委員会が研修事業**

当組合は 11 月 15 日、銀座キャピタルホテルで「工作しやすい鉄骨設計および建築確認の変更に関する講習会」を開催した。研修事業の一環として青年経営者委員会を中心に企画・運営、JSCA・東京の協賛を得て行われ、計 20 名が参加。津山巖・日建設計構造設計室技術長と園部隆夫・SPC 設計代表取締役を講師に招き、工作しやすい鉄骨設計や設計変更への対応などを学んだ。

津山氏は、「鉄骨構造の品質向上とコスト低減につながるディテール」をテーマに講義。「構造設計者は、意匠や構造計算上の数値だけでなく、鉄骨の製作と施工の工程を熟慮した設計図を作る必要がある」とし、工作しやすい鉄骨設計のディテールについて原設計と改善例とを比較しながら要点を解説した。

園部氏は「建基法改正に伴う構造設計変更について」と題し、「軽微な変更」と「設計変更」の適用条件や「誤記訂正」による変更申請が有効な場合など、建基法改正後の確認業務の現状と設計変更の取扱い方の最新動向を説

明。「建築基準法施行規則の一部改正等について」など国交省の通知を紹介し「構造躯体や建物全体の安全性に支障がない限り、しかるべき機関に設計者の承認を得た変更内容を事前に届け出ていれば計画変更とはならない」とし、設計変更の対応策をアドバイスした。



地区会員名簿

東地区 (27 社) 地区長 中川内伸吉

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	那須ストラクチャー株式会社	H	10	中央ビルト工業株式会社	R	19	三進建鉄有限会社	R
2	アイ・テック	H	11	株式会社佐久間鉄工	R	20	株式会社市川スチールエンジニアリング	R
3	株式会社飯田製作所	M	12	城北工業株式会社	R	21	株式会社コイワ	R
4	株式会社中込工業所	M	13	鈴木鉄工建設株式会社	R	22	株式会社辻工作所	J
5	株式会社前田製作所	M	14	有限会社高市工業	R	23	株式会社長谷川工業	J
6	吉岡工業株式会社	M	15	株式会社角鹿鉄工	R	24	ヤナセ工業	未
7	株式会社谷村製作所	M	16	株式会社東洋鉄骨	R	25	株式会社奥村鉄構	未
8	富士工業株式会社	M	17	株式会社利根川鉄工所	R	26	有限会社矢萩鉄工	未
9	株式会社中川鐵工所	M	18	林鉄工株式会社	R	27	中央鋼材株式会社	未

中地区 (13 社) 地区長 (株) 帝都建工 井戸弘忠

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	池田鉄工所株式会社	M	6	株式会社鎌建工業	M	11	有限会社大橋鉄工所	未
2	日東鉄工株式会社	M	7	有限会社修和鉄工	R	12	小久保鉄工株式会社	未
3	松田鋼業株式会社	M	8	井上鉄工株式会社	R	13	株式会社帝都建工	未
4	わくた工業株式会社	M	9	有限会社金谷鉄工所	R			
5	東京建鉄株式会社	M	10	株式会社三侑鉄工	R			

西地区 (23 社) 地区長 (株) 一本木鉄工 杉本豊 相談役 (株) 石郷岡工業 石郷岡梅雄

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	叶産業株式会社	H	9	株式会社一本木鉄工	R	17	株式会社山上建設工業	R
2	川岸工業株式会社	H	10	株式会社酒多鉄工所	R	18	株式会社かしや建設	R
3	株式会社矢嶋	H	11	有限会社坂爪建鉄工業	R	19	近藤鉄工株式会社	未
4	株式会社石郷岡工業	M	12	島崎工業株式会社	R	20	株式会社佐々木鉄工所	未
5	小島工業株式会社	M	13	有限会社中央製作所	R	21	株式会社敏鉄工	未
6	日本鉄構建設工業株式会社	M	14	有限会社橋本鉄工	R	22	株式会社高水鐵工	未
7	有限会社天野鉄工所	R	15	株式会社河村鉄工所	R	23	有限会社藤本鉄工所	未
8	井戸建鉄株式会社	R	16	株式会社栗野鉄工所	R			

東京鉄構工業協同組合協力会員名簿

役	会社名	〒	住所	TEL	FAX	代表者	役職	業種・取扱商品
				E-mail		担当者		
幹事	大日本塗料販売(株) 東京営業所	144-0052	東京都大田区蒲田5-13-23 TOKYU REIT蒲田ビル8F	03-5710-4501	03-5710-4520	宮本和夫	課長	全構指定塗料 錆止め塗料
				okamoto-yu@star.dnt.co.jp		岡本裕介		
幹事	大同生命保険(株) 首都圏地区営業所	103-0027	東京都中央区日本橋 2-7-4	03-3241-4311	03-3278-9676	澤村茂樹	営業本部長	生命保険 共済保険
				kijima.mitsunori@daido-life.co.jp		木島三典		
監査	ダイニッカ(株)	104-0032	東京都中央区八丁堀 1-9-5	03-3552-3163	03-3552-3162	高岡鉄矢		全構指定塗料 錆止め塗料
				t-takaoka@star.dainikka.co.jp		川路幸祐		
会長	富士見興業(株)	166-0003	東京都杉並区高円寺南 1-27-11	03-3314-1430	03-3314-5818	石塚 勲	代表取締役	高圧ガス、溶材、皮手袋 機械、工具、防じんマスク
				honbu@fujimikougyo.co.jp		蒲生紘一郎		
幹事	(株)アマダカutting	224-0025	神奈川県横浜市都筑区 早瀬1-28-18	045-594-1923	045-591-9460	橋本文夫	副本部長	パソ'ワー用プレート'
				fumio.hashimoto@amada.co.jp				
会計	(株)ファーストクルー	111-0053	東京都台東区浅草橋 5-24-6NBK浅草橋ビル6F	03-5822-3544	03-5822-3554	鈴木 康	代表取締役	鉄骨専用 CAD/CAMシステム
				fast@fastcrew.co.jp		辻川高士		
	(有)秋山商会	192-0151	東京都八王子市上川町 1128	042-654-7530	042-654-0777	秋山弘志		クレーンリース
	加研興業(株)	136-0071	東京都江東区亀戸 5-23-6	03-3684-8031	03-3684-8042	吉川由巳	代表取締役	研削砥石製造販売
				takahashi@kaken.net		高橋 亨		
	サンコーテクノ(株)	270-0107	千葉県流山市西深井 1296-16	04-7178-3500	04-7178-5100	小西隆夫		建築金物製造販売
						中村		
	(株)昭和塗料商会 東京営業所	101-0051	東京都千代田区神田 神保町2-48 3510ビル	03-3265-8951	03-3262-4570	伊東勝美	所長	塗料販売
				shwa-toryo-t@k2.dion.ne.jp		渡辺高紳		
	青林保険事務所	110-0015	東京都台東区東上野 3-12-5 高野ビル3F	03-3839-7216	03-3839-7548	金子直行		生損保商品販売 (AUI 保険代理店) 第三者保証、任意労災
				naiki@tka.att.ne.jp				
	(株)星和	121-0052	東京都足立区六木 2-6-27	03-3605-0817	03-3605-3521	北嶋重司	専務取締役	鋼材、建築資材
						星野傳弘		
	(株)東栄化学	192-0032	東京都八王子市石川町 2973-3	0426-31-3801	0426-31-3808	中村正二	代表取締役	高圧ガス
				info@toei-kagaku.co.jp		宮阪直樹		
	所沢資材(株)	359-0032	埼玉県所沢市若松町 852	04-2992-0231	04-2998-0570	本橋孝義	代表取締役	ベアスパック ハイベアス
				tokosai-l@circus.ocn.ne.jp		小高進一		
	中村鉄興(株)	359-1164	埼玉県所沢市三ヶ島 1-478	04-2948-0610	04-2949-2209	中村弘田郎	代表取締役	切り板、ワイヤーロープ 孔あけ、スリング、吊具
				ntk@viola.ocn.ne.jp				
	野村産業(株)	206-0812	東京都稲城市矢野口 786-1	042-377-6352	042-378-0655	野村俊明	代表取締役	高圧ガス、溶材機器 ハイテンションボルト
	フルサト工業(株)	362-0808	埼玉県北足立郡伊奈町 大字小針新宿中島1295	048-728-8861	048-728-8868	丹羽新六	所長	鉄骨副資材、JIS プレス ボルト、ターンバックル
				f0232@furusato.co.jp				
	(株)丸和	279-0025	千葉県浦安市鉄鋼通り 2-6-8	047-304-0811	047-304-0819	中畑守弘	代表取締役	鍍鋼板専門 鋼板加工
				maruwa@checkerplate.co.jp		阿部孝典		
	美鈴印刷紙工(株)	135-0033	東京都江東区深川 2-24-11	03-3643-4485	03-3642-3265	飯島隆典	代表取締役	印刷・原寸用フィルム 製造販売、鉄骨製作工場名表示板
				misuz-film-l@tokyo.email.ne.jp		佐藤智輝		
	有修溶工(株)	136-0071	東京都江東区亀戸 9-35-16	03-3637-6251	03-3637-6253	前川修一	代表取締役	スタッド溶接工事 材料販売
				stud@yu-shu.co.jp				

編集後記

はてさて、何ともやり切れない世の中になったものです。

一昨年の米国のサブプライムローン問題がここまで深刻な金融危機と、それによる実体経済の破綻をもたらすとは誰も考えていなかったのでしょう。特に米国政府は神の見えざる手を信じていたのかもしれない

ん。コントロールを失った金融システムは、自己循環論法によって信用が膨張していったのでしょうか。

素人には良く分かりませんが、リスクを証券化し分散した形にはなっているが、結局は金融機関同士でお互いがお互いのリスクを引き受けあってきたに過ぎなかったようです。落語の花見酒と同じとはよく言ったものです。

やはり経済の基本は、物を生産し価値を生み出すことにあると思います。

鉄骨業界は、今回のミニバブルで供給能力はかなり増大したと思われるので 当面は厳しい経営環境が続くものと思われます。このような時期にこそ組合の利点を活かし、相互に協力してこの難局を乗り切って頂きたい。